



自転車観光振興への挑戦と
地域貢献の始まり

サイクルツーリズムの可能性を求めて サイクリングを内子町の新しい風景に

内子町地域おこし協力隊 大川 民恵



内子町観光協会と一緒に日本語と英語のサイクリングマップを作成



広報内子でご紹介頂きました(着任時)

ていない状況でした。そのため、月に一度のグループライドを通じて、町内外の

住民と交流を深め、サイクリングを楽しむ文化や土壌を育むことに力を入れました。

さらに、内子町内のサイクリングコースの見直しや多言語化したサイクリングマップの作成を進め、観光資源の整備に取り組みました。町有林を活用したマウンテンバイクトレイルの造成イベントも毎年実施しています。こうした活動を通じて、地域の観光資源の魅力や可能性を再発見し、それを観光と結びつけていくことができると確信しました。

We Ride Japanの立ち上げとサイクルツーリズムの可能性

2022年10月、日本の水際措置が緩和され日本観光のデマンドが一気に高まったことを確認した私と夫は、訪日観光客を対象とした広域サイクリングツアーを提供す

る。私は、地域を自転車で巡り、その土地の自然や文化を体験することで観光客と地域がつながる新しい観光の形です。サイクリングが内子町の観光の新しい切り口となり、将来的には内子町が四国のサイクルツーリズムの拠点の一つとなることを目指し、挑戦していきたく強く思っていました。

コミュニティとの協力と地域資源の活用

活動を開始するにあたり、最も重要だと感じたのは地域とのつながりを築くことでした。内子町に着任した当初、レンタサイクルは数台しかなく、サイクルツーリズム自体が地域に根付い



町内外の住民と内子のサイクリングを楽しむ月に一度のコミュニティライド

が停滞する中、先の見えない未来への不安もありましたが、同時に新たな挑戦に胸を躍らせていました。

サイクルツーリス



ニュージーランドはサイクルツーリズムの先進国



る「We Ride Japan」を立ち上げました。

しかし、内子町に特化したサイクリングツアーだけでは、誘客に限界があることを早い段階で実感しました。そのため、しまなみ海道や四国、さらには九州といった広域を巡るツアーを企画し、内子町を休息日として組み込むことにこだわりました。これにより、内子町の観光で課題となっている滞在時間の向上に繋がると考えたのです。

内子町に2泊3日滞在してもらう間、町内の宿泊施設や飲食店、お土産屋さんを利用してもらうのももちろん、参加者の多くは、大州和紙の紙漉き、うちわ作り、着物の着付け、地元農家の軒先で昼食を楽しむ絶景ランチなど、さまざまなアクティビティを楽しんでいます。休息日とはいえ、太鼓橋が美しい弓削神社までのサイクリングを楽しむ方も多く、人口15000人弱の小さな町で、ここまで豊富なア



広域サイクリングツアーのゲストを里山の絶景ランチにご案内。地元農家との交流が楽しい(石畳・内子)



しまなみ海道の存在は四国のサイクルツーリズムの大きな強み

クティビティを提供できる内子町は本当に素晴らしいと思います。

地域経済の活性化と反響

肝心の地域への

還元ですが、私たちのツアー参加者が内子町に2泊する間、ざっと計算してもひとり当たり最低50000円を消費してくれる計算になります。

去年は弊社のお客様だけで100名弱が2泊3日内子町に滞在しましたが、来年はさらに増える見込みです。日帰りで訪れる観光客が大半の内子町での観光消費額を向上するためにも努力を続けていきたいと思っています。

We Ride Japanのサイクリングツアーは、単なる観光ツアーにとどまらず、地域経済の活性化を目的としています。この「体験を通じて地域に還元する」という循環が、持続可能な観光の形だと確信しています。

2024年のツアーは予想以上の反響を得ており、2025年のツアー日程の多くがすでに満員となりました。円安を追い風に訪日観光客が増加し、サイクルツーリズムの需要が高まっていることを痛烈に実感しています。これからも地域に良い影響を与える活動を継続し、さらなる成長を目指



着任2年目から地元ゲストハウスとはじめた蛭ライドはリピーターも多い名物企画

しています。

人材育成とツアーのスケールアップ

ツアーの人气が高まる一方で、現在のキャパシティに限界を感じています。この課題を解決するためには、日程が重複する複数のツアーを同時に実施できる体制を整える必要があります。

そのためにガイドを増やすことも必要ですが、それ以上に、現在関わっている素晴らしいガイド仲間たちのスキルアップを継続してサポートすることが大切だと感じています。

これからの展望と継続的な挑戦

サイクルツーリズムは、地域と観光客をつなぐ強力なツールであり、観光産業の発展や地域経済の活性化に貢献できる可能性を秘めています。私はこれからも、地域の人々とともに地道に活動を続け、楽しみながら地域貢献をしていきたいと思っています。サイクリングというツールを通して、地域がもっと元気になるために、私の活動はこれからも続きます。



サイクリング関連事業の人材育成のための講座も定期的に開催